

部落解放文学賞入選「游人たちの歌」

自閉症の青年との 出会いと死別まで

パン作りで障害者の自立を支える阿蘇市蔵原の地域活動支援センター「夢屋」を運営する宮本誠一さん(48)＝同市黒川＝が、自閉症の青年との出会いから死別までをつづつたノンフィクション「游人^{あそびと}たちの歌」を自費出版、12日発行した。

昨年4月、第35回部落解放文学賞の記録文学部門に入選した作品。これまで「夢屋」名義で小説を発行したことはあったが、個人名義では初めて。

夢屋のパンを購入している星文堂家人書店(同市一の宮町)に宮本さんが出版を相談、

阿蘇市の「夢屋」宮本さんが自費出版



「游人たちの歌」を発行した宮本誠一さん＝阿蘇市の夢屋

紹介してもらった熊本市の会社で500部を印刷した。

作品は、宮本さんと自閉症のトオル(仮名)が、夢屋の内外装を手

作業で進めるシーンや殴り合う場面など、2人の話を中心に展開。

行政との交渉やパン販売の工夫など、運営資金を得る努力なども詳細に表現している。

「生の体験が書かれた参考書として、これから作業所を始めようと思っっている若い方や障害者の親などに読んでほしい」と宮本さん。

表紙の写真は、トオルが塗った夢屋の壁。

A5判、90ページで800

円(税込込み)。夢屋

0967(34)02

23。(福山聡一郎)